

平成18年 秋冬号

四寺廻廊

山寺立石寺の慈覚大師 御尊像が重要文化財に



寺での法要。御詠歌衆を先頭に四寺住職・僧侶が、立石寺本坊から根本中堂へと練行を行った。おりしも今年、立石寺所蔵の「慈覚大師御尊像」が国の重要文化財に指定された。

立石寺は、慈覚大師の入定された寺として知られているが、今回、その御遺骸を納めた入定窟の調査が行なわれ、御遺骨を除く全体が重要文化財の

四寺の住職によつて勤修される四寺法要は本年度四回目となった。

平成十五年以来の立石

指定を受けた。特に、大師のお顔を刻した頭部像は、我が国唯一の作例とされ、大変貴重な物と言われている。

松島瑞巖寺五太堂御開帳

平成十八年八月十八日、瑞巖寺の五太堂、三聖堂、日吉山王社が三十三年ぶりの御開帳となった。開扉の法要には、立石寺、中尊寺、毛越寺の貫主も参列した。御開帳は二十日までの三日間で、一万八千人を超え



る方々が参拝。十九日には瑞巖寺本堂で東儀秀樹さんの雅楽の演奏が奉納され、約六百人がその音色に聞き入った。

中尊寺千田貫首退任



平成五年より十三年にわたり中尊寺貫首をお勤めになった千田孝信大僧正が退任なされた。後任には目黄不動尊として有名な東京都最勝寺の山田俊和僧正が晋山。晋山式は十月七日に行われた。

《もくじ》

四寺ご住職のお話……………
四寺徒然「慈覚大師と写経」
句「山寺の秋」……………
山川草木(柿)……………
芭蕉の道をたどつて
お知らせ……………



四寺ご住職のお話

「ゆっくりゆったり」

医王山毛越寺貫主
南洞頼教

昨今の社会の情勢は、生活が豊かになった反面、心の貧しさが目立つようになり、青少年の犯罪は低年令化し、短絡的な犯罪が増加し目に余る物があります。
先年インドのマザーテレサ氏が来日した際、日本の現状を見て『インドの貧しさよりも日本の心の貧しさの方が深刻である』と云わせるに至っています。

また、河合隼雄文化庁長官の「形の見えない世界」という講演を拝聴しましたが、そのお話の中で『日本の文化は心と心の繋がりを大切にするのが特徴だったが、物が豊になるにつれて心が軽視されるようになった。日本人は物と身体と心に分けない、見えない心を物で表す洗練された文化を持っていると言われている。生け花を例に取ると、花を生けるといことは花の心を感じ取るから表現できるのであると云う。最近危惧するのは、母親と赤ちゃんの心のふれあいである。昔の母親は子供のために身を削り血の通う子育てをしたが、今は先ずお金で解決し、なるべく手を掛けない子育てをする時代かと錯覚する…。本当に心というのは不思議だと思つ」と結ばれました。
昨年もそうでしたが、今年も痛ましい事件や事故の多い年で心が痛みます。幼児の殺傷事件や少年の親子殺傷事件などが後を絶ちません。テレビ等のマスコミも連日生々しく「どうしてなのでしょう、何故なのでしょう」と矢継ぎ早に耳にたこが何個も出来るくらい次から次と伝えてきます。

解説者や教育評論家が「豊かさの追求や核家族化の後遺症」か「学校や家庭や地域の教育力の低下か」などと云われますがこれぞという結論は出ません。特效薬は無いと思つのです。
豊かさ≠幸せ！とはかぎりません。
今辛くても幸せはやってきます。
思つに
「もう少し地道にゆっくりゆったり生きてみたらどうでしょうか」
神様や仏様、そして自然界に畏敬の念を持ち、おじいちゃんやおばあちゃんとの交流を生活の中に生かし、生きる知恵や生活の知恵を学び、家族を大事にして他人を敬い、地道にほんの少し我慢の生活をすることも大事だと思えます。
みちのくの「四寺廻廊」を巡る街道の野山が色づき始め涼風が心地よく「四寺廻廊」巡りにとてもよい季節となりました。
家族揃って「ゆっくりゆったり」古刹それぞれのお参りし、その霊域の風に当たりながら何回でも巡ってみては如何でしょうか。



【毛越寺 大泉が池】

然 徒 寺 四

「えんぴつで奥の細道」という本がベストセラーになりました。携帯電話やメールの時代に、文字を書く、なぞるといふ行為が見直されたのには理由がありそうです。文字をなぞるといふ点では、その原点には写経があげられます。一般的な般若心経の写経では、お手本のお経の上に薄い和紙を敷いて、下の字をなぞって写経します。写経は自分の為の修行であると同時に、より多くの衆生にそして未来にお経を伝えるための行為でもあります。



中尊寺開山慈覚大師坐像

ですから書き上がったお経はお寺に納めるのです。納めたお印として納経帳に御朱印をいただきます。今ではこの写経と納経は省略して、御朱印だけいただくのが一般的になりつつあります。

四寺廻廊各寺の開基である慈覚大師円仁さんは、四十歳のころ病気になるに比叡山の横川に籠もった時期がありました。師の伝教大師最澄が亡くなり、その教えを担う人材として期待された円仁さんは、「自身の修行を中断して布教活動に奔走しておられました。その過労だったのでしょう。目が不自由となり付き添いが必要ならば歩けない程だったそうです。

横川では、弟子や信者が自然と集まり、円仁さんのお世話をしたそうです。ある時、夢に松尾明神が現れ、不思議な果実をくださりました。それ以後円仁さんの病状は回復に向かい、目も見えるようになりました。そのお礼に法華経の写経を始めました。精進潔斎し、石を墨硯、草木を筆として一字ごとに三礼して写経されたそうです。このお写経は「如法写経」「如法経」とも呼ばれます。

一字一字を仏様と思つて書写することは、一般的な写経でも変わりありません。情報が氾濫した時代だからこそ、文字の有り難さ、そこに込められた本当の意味を理解しようとする丁寧な心が必要です。

回復した円仁さんは、唐に渡り九年以上の求法の旅を経て、仏教経典、曼荼羅などを日本に持ち帰られたのです。

山寺の秋

今年の暑かった夏も、ようやく終わりました。今年も、各地で連日三十度を越える日が続きましたが、九月ともなると、朝晩には涼しい風が吹き、間もなく秋も本格的になります。

山の秋と言えば、まずは紅葉です。山の紅葉は、初め山の頂上から色着き始め、段々と下って来ます。「ここの山寺では十月中旬頃から、奥羽の山脈の尾根から紅葉が始まり、下旬になると、寺の回りの木々も、赤や黄色に色鮮やかに変わります。今年のように、夏に暑い日が多いと、秋の紅葉は色着きが良いと言われていますので、大いに期待しています。

普段は、何げなく見過ごしている木々が、赤や黄色に変わり、やがて深紅や、輝くばかりの黄色に変わって行く様子を見ている事は、なかなか楽しい事です。枕草子風には「秋ともなれば、山の木々の赤や黄に色着きたる様見たる、いとおかし。」と、言ったところでしょうか。

又、山寺の秋の味覚と言えば、何と云つても芋煮(最近では山形だけでなく、各地で色々な味付けの芋煮ができて、すっかり全国的になってきました。)や、栗ごはん、それに色々な種類の茸を楽しむ事が出来ます。その他、リンゴやブドウにフランクス等々、多くの果物も忘れてはなりません。

日本には、古来、「紅葉狩り」と称して、日常の仕事をし、忘れ、紅葉を愛でながら、一日を秋の味覚を楽しみつつ過ごす、と言った風雅な行事もあります。夏の暑さで疲れた体をやすめ、多忙な仕事をはなれて、大自然の中でユックリと過ごしながら、大いに心身をリフレッシュして下さい。

(立石寺)



旬



春生夏長

秋収冬蔵

柿

農家の軒先に、まだ橙色の柿が紐に連なって干されています。砂糖が貴重品だった時代、干し柿は貴重な甘味でした。干し柿は栄養価が高く、特にビタミンA・Bなどを多量に含みます。干し柿は渋柿で作ります。生のとき渋ければ渋いほど干し柿は甘くなるそうです。渋みの基はタンニンで、天日で干すことにより凝固して溶け出さなくなります。栗もイガから取り出したばかりよりも天日にさらしてからの方が甘くなります。おひさまの光は偉大です。

権の実・どんぐりなどは、落ちていても「秋だなあ」とは思っても「美味しそう」とは思わないでしょう。いずれも干したり、皮をむいたり、砕いたり、食べるには手間暇がかかります。どんなに手間をかけてでも食べたい甘味であり、冬を越すのに必要な栄養源でした。

現代は甘い物も新鮮な果物もコンビニにある時代ですから、夜中だろうと早朝だろうと10分も歩けば手に入ってしまう。「菓子」というと、ケーキや饅頭のような物を連想しますが、「菓」の草冠が表すように元々は果物とその加工品です。コンビニのパックに入ったケーキを見ても「自然の恵みだ」とはちっとも思いませんが、小麦、牛乳、卵、果物、砂糖黍とれをとっても自然の恩恵によるものです。ただ干し柿のように元々の形が残っていたりすると少しは「ああ、自然の恵みだ。有難い。」と素直に思えるのかもしれない。

芭蕉の道をたどって

宮城県登米市



県指定重要文化財 警察資料館（旧登米警察署庁舎）



国指定重要文化財 教育資料館（旧登米高等尋常小学校）

明治の面影を残す街

登米

元禄二年一六八九五月十一日、松尾芭蕉と曾良は渡し舟で登米に辿り着きました。奥の細道もいよいよ佳境。平泉を目指して石巻から一関街道を北上し、ここに一宿しています。

登米は登米伊達氏二万一千石の城下町として北上川の水運によって栄えた町でした。今も町内には、当時の武家屋敷の門や白壁の蔵、古い商家の建物、旧登米高等尋常小学校の校舎など、江戸や明治・大正の建物がいたるところに見られます。明治維新後は、廃藩置県制度が確立するまで、登米県、一関県、水沢県と名称を変えながら、一時はその県庁が登米に置かれていました。国鉄の東北本線からも離れ、JR東北新幹線からも離れ、東北自動車道からも離れた町ですが、だからこそ感じるノスタルジックな雰囲気は行った者に不思議な安らぎを与えてくれます。

【仙台からのアクセス】

- ・直行高速バス（仙台駅前〜とよ明治村）一日五往復
- 所要時間1時間30分 片道千二百円 全席禁煙 予約不要
- ・自家用車 東北自動車道 古川IC（登米50分）築館IC（登米40分）

実るほど頭を垂れる稲穂かな



稲穂

編集後記

新米の季節です。
 稲の副産物「藁」は、日本文化を形成する品々の材料です。しかし草鞋、蓑、縄、藁葺き屋根などは、もはや時代劇の世界の品々です。現在の機械農法では藁は不要な物です。田んぼの底にある土は焼き物の材料になります。米糠は美味しい漬け物を作ります。長年、糠床をかき回していたお母さんのおにぎりと、ビニール手袋で握られたおにぎりとは比べようもありません。
 日本人がご飯の美味しさを忘れませんように。

お知らせ

- 11月1日～3日 秋の藤原まつり 「平泉町」
- 11月第2日曜日 芭蕉祭 「瑞巖寺」
- 1月14日 慈覚大師御命日
- 1月17日 大般若祈祷法要 「立石寺」
- 1月20日 二十日夜祭(延年の舞奉納) 「毛越寺」
- 2月3日 大節分会 「中尊寺」
節分会 「立石寺」